

山梨県富士北麓地域のコナガの各種薬剤に対する感受性について

○鷹野公嗣¹・近藤真理¹・渡辺真理子¹・石田久美子²・村上芳照²

¹山梨県病害虫防除所

²山梨県総合農業技術センター

○コナガの薬剤感受性検定については、これまで主要なアブラナ科野菜の主産地等で実施されてきた。本県は富士北麓地域が夏秋キャベツの産地であり、國友・金谷(2016)による2014年、2015年の調査で、フルベンジアミド水和剤に対し感受性の低下が確認された。その後指導機関や生産者等から、各種薬剤に対する効果確認の要望が強かったため、感受性検定を実施した。検定に用いた薬剤は、ジアミド系4剤、マクロライド系4剤、BT剤5剤、IGR剤3剤、その他4剤とした。同地域で新たに採取したコナガ4系統および甲斐市(総合農業技術センター内)の1系統について、常用濃度における2~3齢幼虫の薬剤感受性を葉片浸漬法により調査した。その結果、ジアミド系では、既に効果の低下が認められていたフルベンジアミド水和剤の他に、クロラントラニリプロール水和剤の感受性が低下した系統が見られた。IGR剤では一部の系統でルフェヌロン乳剤、フルフェノクスロン乳剤の感受性の低下が見られた。マクロライド系、BT剤ではすべての系統に対して、概ね高い殺虫効果を示した。今後は現地で使われている他系統の薬剤についても感受性検定を行い、その結果等に基づく防除対策に取り組んでいく。

Susceptibility to Various Insecticides of the Diamondback Moth (*Plutella xylostella*) in Fuji Hokuroku area of Yamanashi Prefecture.

Koji Takano¹, Mari Kondo¹, Mariko Watanabe¹, Kumiko Ishida², Yoshiteru Murakami²

¹Yamanashi Prefectural Plant Protection Office

²Yamanashi Prefectural Agritechnology Center